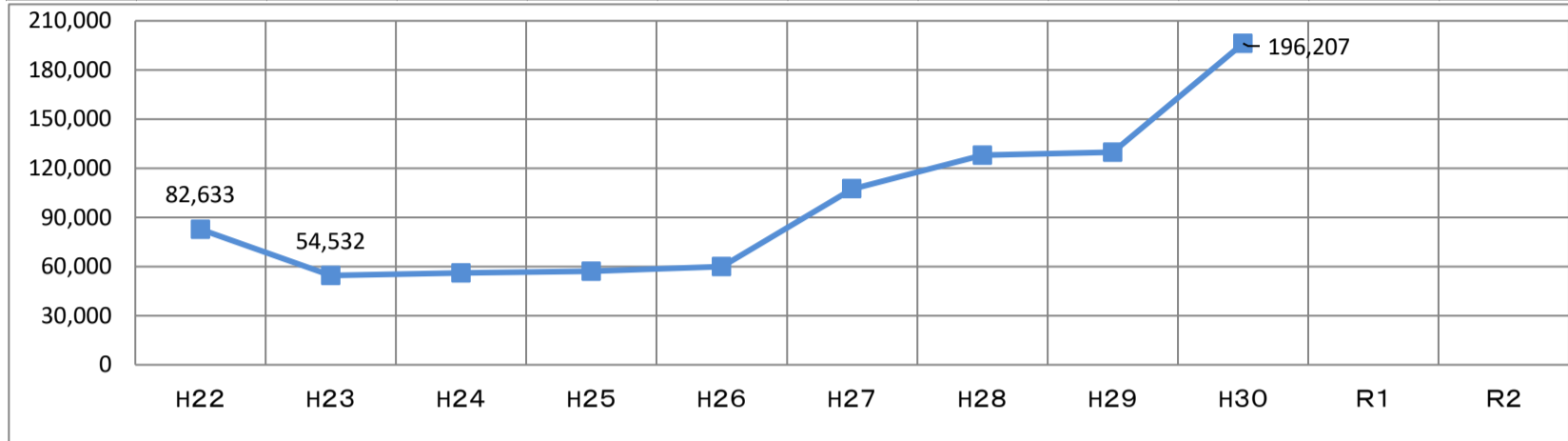


## 指標から見た施策の進捗状況と総括

### ○推進施策1 県民の文化活動の促進

#### 1 県民カレッジ受講者数【目標値:200,000人(令和2年度)】

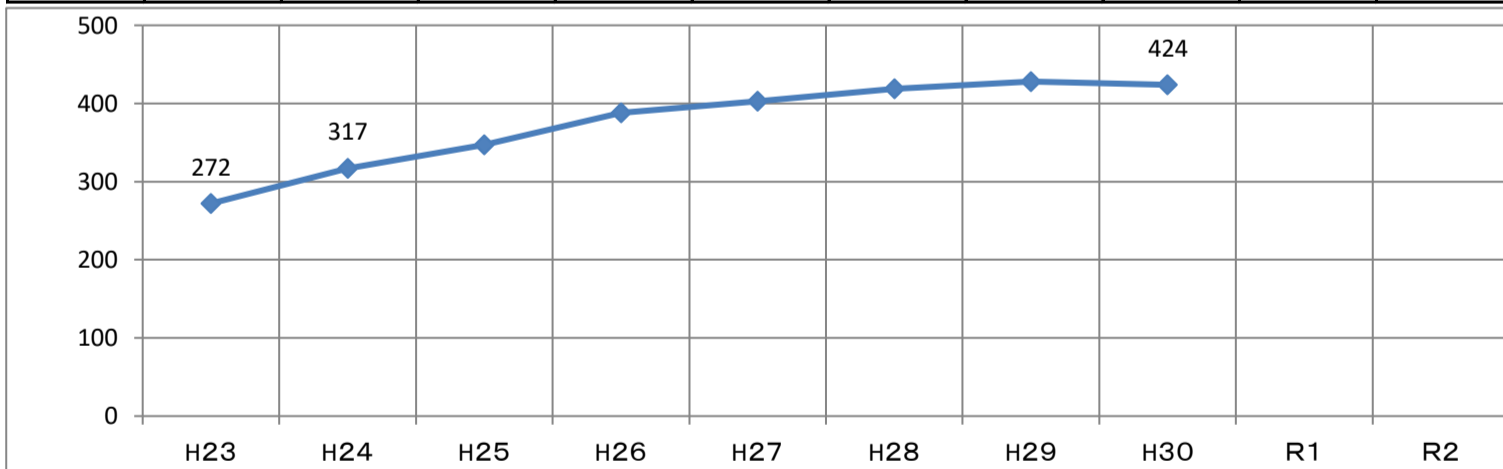
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	82,633	54,532	56,063	57,105	59,843	107,380	127,989	129,669	196,207		



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内県民カレッジ連携講座受講者数 37,217人(前年38,557人)</li> <li>・市町村連携講座受講者数 158,990人(前年91,112人) 合計196,207人(前年129,669人)</li> <li>・県主催事業における県民カレッジ連携講座(受講者が一市町村に限らず、誰でも参加できる講座)については、開設要件を満たしているのか適正に判断し、実際の参加人数を計上している。</li> <li>・震災後、意図的に生涯学習講座が多く開催された。避難指示が解除された市町村においては、地元での講座の拡充が予想される。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、受講者減少にならないよう、生涯学習課として関係機関と連携し、講座の情報提供を行っていかなければならない。</li> </ul>

#### 2 学術・文化・芸術・スポーツを活動分野のひとつとしているNPOの認証数【目標値:470団体以上(令和2年度)】

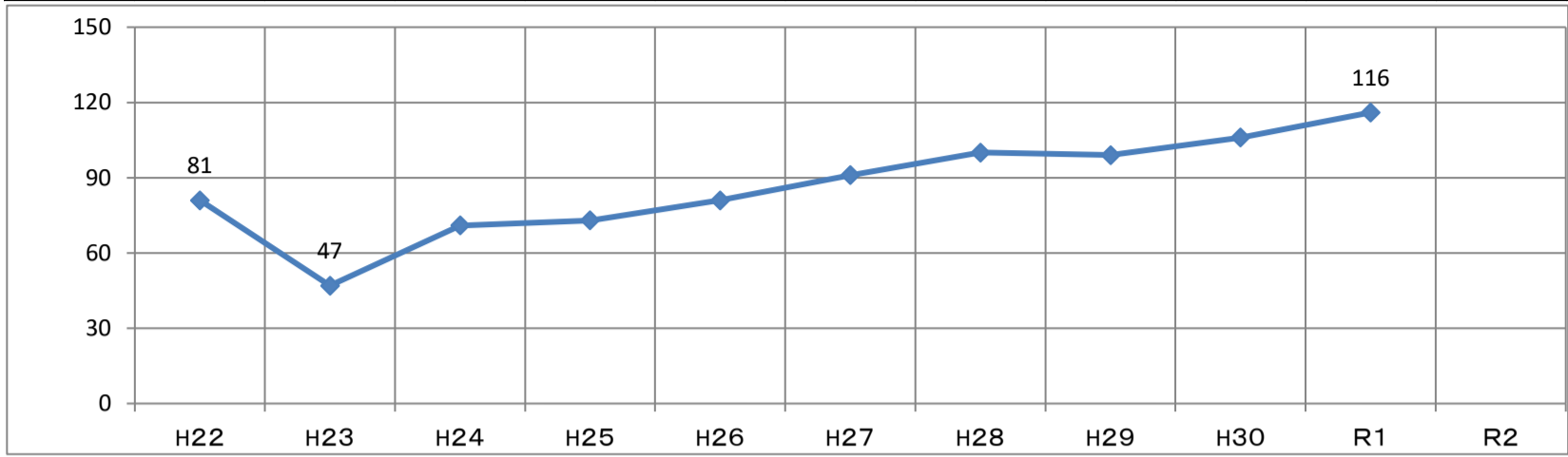
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値(累計)	272	317	347	388	403	419	428	424		



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証件数は増加傾向にあるが、平成26年度をピークに、徐々に増加幅が減少しており、今後ほぼ横ばいで推移すると想定している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人が安定して特定非営利活動ができるよう、引き続き、法の趣旨に沿った適正な法人の運営に向け、各種情報提供等を行う必要がある。</li> </ul>

### 3 福島県芸術祭参加行事数【目標値:108行事以上(令和2年度)】

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	81	47	71	73	81	91	100	99	106	116	



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県芸術文化団体連合会や市町村と連携を図り、各団体へ参加を呼び掛けた結果、参加行事数が増加した。</li> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、本県の芸術・文化の魅力を発信する事業であり、引き続き参加行事数の増加を図っていく。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの県民や団体に参加してもらえよう、福島県芸術文化団体連合会や市町村と連携を図り、芸術祭及び各団体の活動の更なる周知を行うことで芸術祭の認知度を高める必要がある。</li> </ul>

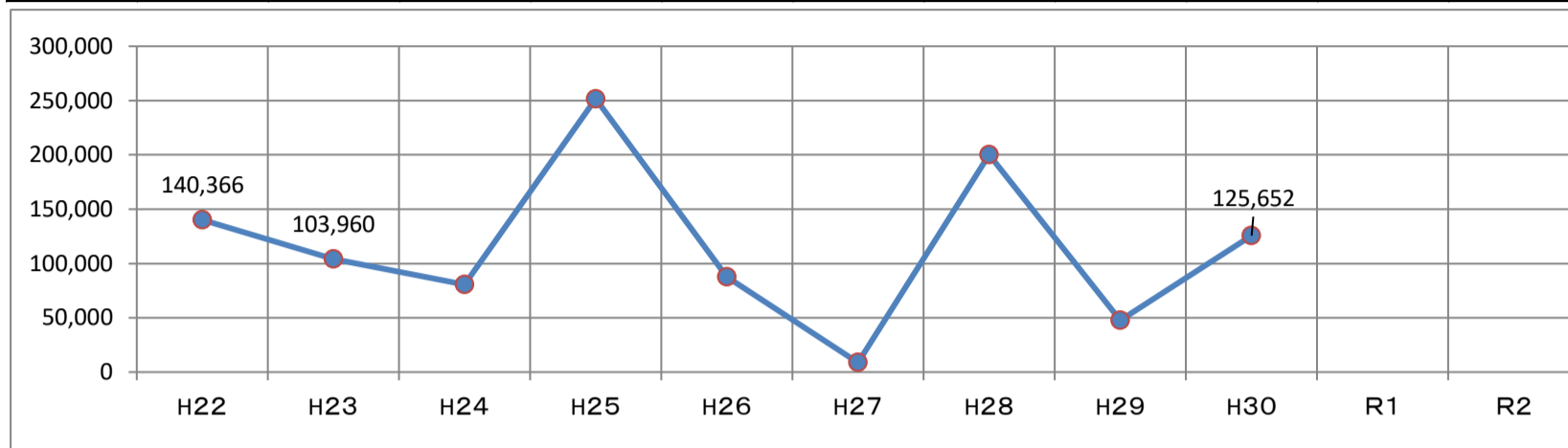
推進施策の総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、関係団体等との連携を図ることにより、県民の文化に対する意識の醸成に努め、生涯学習に取り組む県民の増加、また、芸術祭への参加団体の増加につなげることができた。</li> <li>・今後も、市町村や関係団体等との連携を一層進め、県民への情報提供に努めることにより、県民の文化活動の促進を図っていく必要がある。</li> </ul>
---------	---

○推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

○推進施策4 文化活動を行う拠点の機能の充実

1 県立美術館の入館者数【目標値:120,000人以上(令和2年度)】

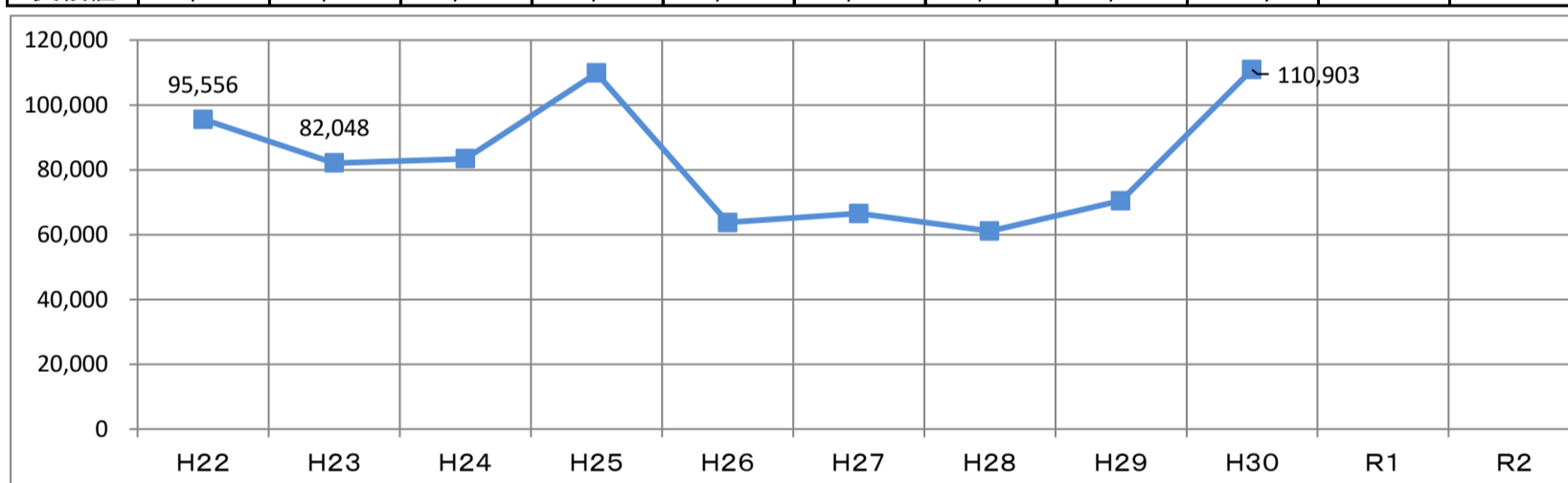
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	140,366	103,960	80,631	251,646	87,576	8,728	200,278	47,545	125,652		



指標の変動要因と今後の見通し	・平成30年度は大規模企画展の開催により、年度別目標を達成したところである。今後も大規模企画展の開催を予定しており、数年は目標を達成できる見込みである。
課題	・入館者数はその年に開催される企画展によって大きく左右されるため変動が大きく、順調に増加するとは限らない。

2 県立博物館の入館者数【目標値:100,000人以上(令和2年度)】

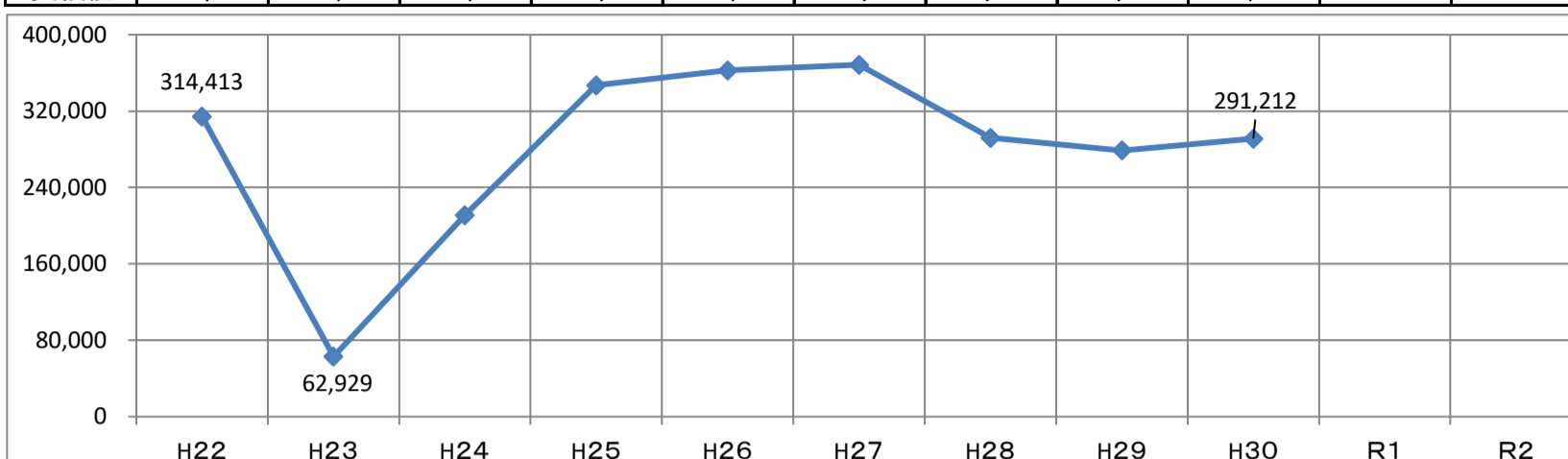
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	95,556	82,048	83,401	109,838	63,739	66,509	61,073	70,443	110,903		



指標の変動要因と今後の見通し	・平成30年度は主に、企画展「美しき刃たち」、「戊辰戦争150年」で入館者数が伸び、目標値に達することができた。令和元年度についても大規模企画展の開催があり、目標を達成できる見込みである。
課題	・入館者数はその年に開催される企画展によって大きく左右されるため変動が大きく、順調に増加するとは限らない。

### 3 福島県文化センターの入館者数【目標値:345,800人以上(令和2年度)】

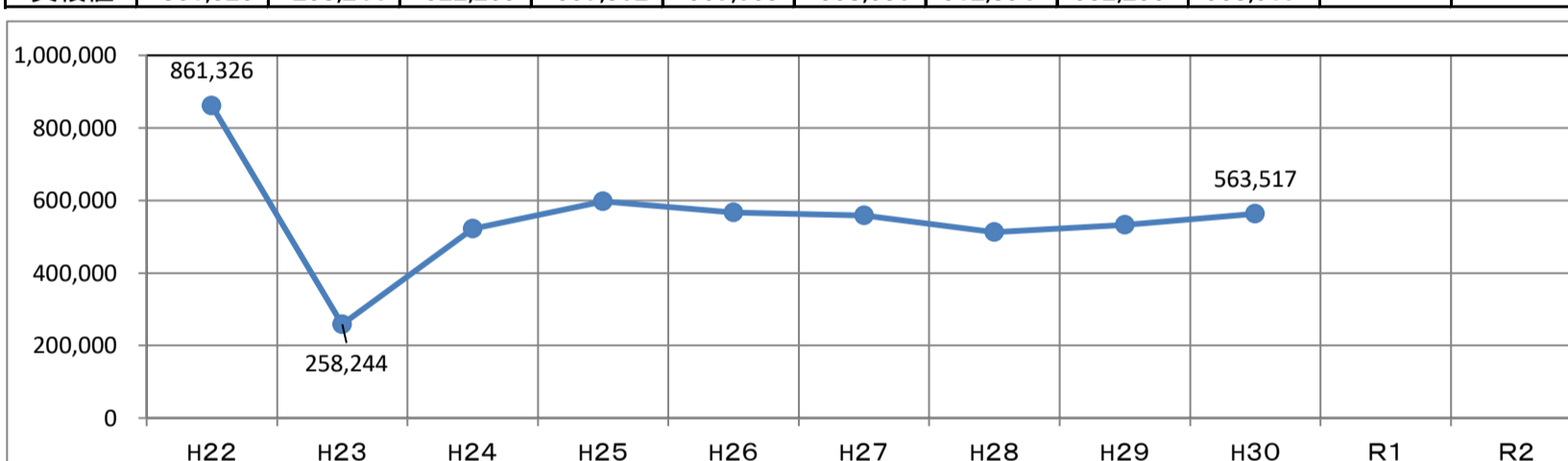
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	314,413	62,929	211,000	346,873	362,520	368,552	291,940	278,775	291,212		



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な企画展や催し物があると利用者数は増加するが、企画内容などによるため、前年度比1%増で推移するとは限らない。</li> <li>・定期的なメンテナンスの他、施設老朽化の対応としてホールを休止して行う大規模改修工事(例:H28、H29)は、休館とせざるを得ないため、利用者減となる大きな要因である。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化のため、今後も設備改修工事は実施する必要があるが、工事実施による休止期間をできる限り縮減するため、改修工事の同時施工など、工程を調整する必要がある。</li> </ul>

### 4 アクアマリンふくしまの入館者数【目標値:900,000人以上(令和2年度)】

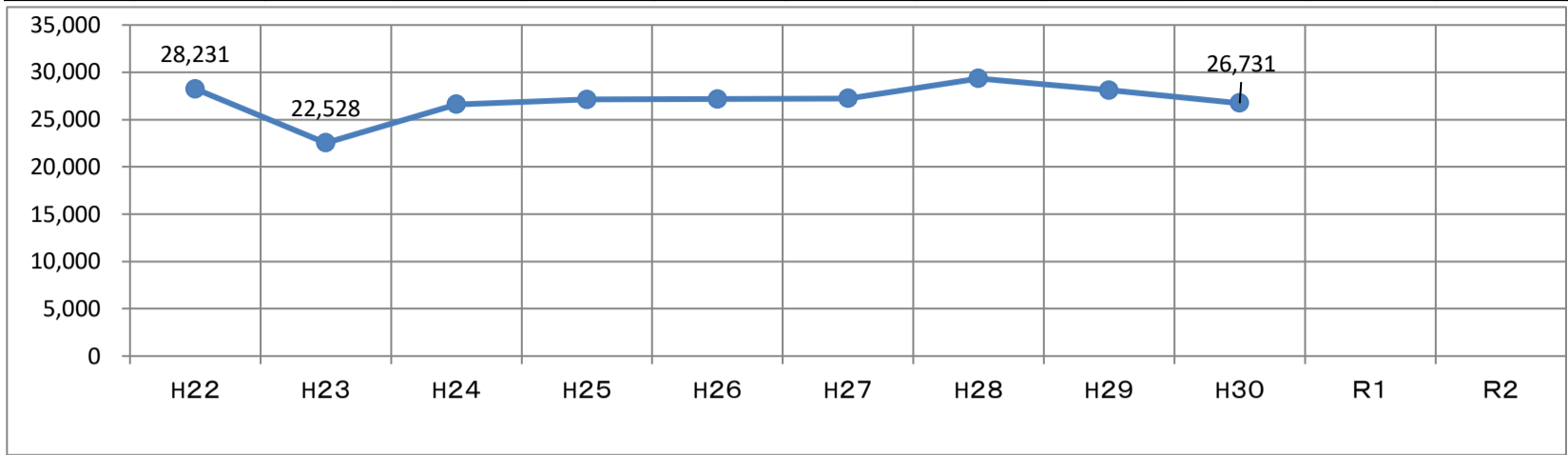
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	861,326	258,244	522,269	597,302	567,069	558,630	512,894	532,256	563,517		



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は前年度より約3万人の増加となった。3月から5月にかけて開催された「テオ・ヤンセン展」による客足の伸びや、11月に開催された「第10回世界水族館会議」を通じた情報発信の強化などが入館者数の増加につながったと考えられる。</li> <li>・令和2年度は開館20周年の節目の年となり、企画展やシンポジウムといった関連行事のほか、入館料の割引などの取組みが計画されていることから、今年度より入館者数の増加が見込まれる。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災・原発事故による入館者数の落ち込みの影響が未だに大きく、以前の水準を大きく下回っている。失われたシェアの回復に向け、魅力の向上や近隣競合施設との差別化などの取組みがより一層求められる。</li> </ul>

### 5 まほろんの入館者数【目標値:30,000人以上(令和2年度)】

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	28,231	22,528	26,597	27,127	27,166	27,227	29,341	28,102	26,731		



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、郡山市や福島市に類似施設がオープンしたこと、加えて「コミュタン福島」などが開設されたことや、来館数における大きな割合を占める小学校等において、カリキュラムが過密になったことなどもあり、学校からの入館者数が減少している。また、社会情勢的にも団体旅行が減少傾向にある。</li> <li>・魅力ある企画・イベントの実施やより充実した情報提供などサービス向上に努めていく。また、観光とのタイアップなども考えていく。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーター等による入館者の確保、県内外隣接地域の学校等に対するPRによる団体利用の確保、県広報メディア等を利用した周知による来館の促進が課題である。</li> </ul>

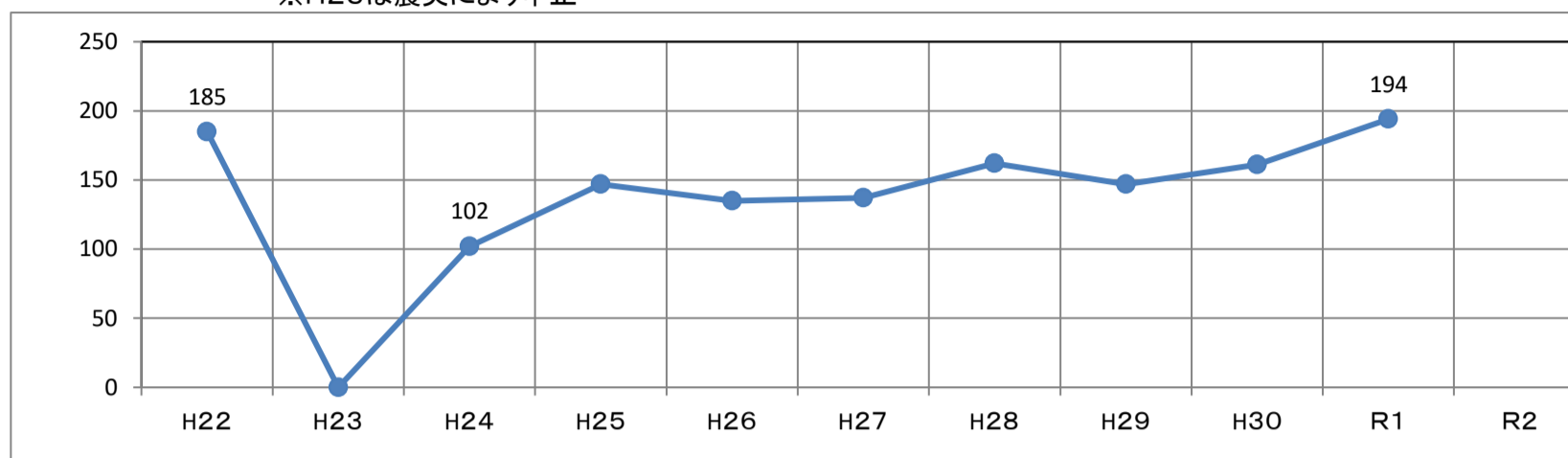
推進施策の総括 (推進施策2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ等で文化イベントを発信するとともに、企画展やワークショップ等の参加型事業を通じ、県民が文化芸術に親しむ機会の提供に努めた。</li> <li>・次期計画の策定においては、入館者数が企画展の内容に大きく左右されることや人口減少といった社会情勢の変化を踏まえ、目標値を検討する必要がある。</li> </ul>
推進施策の総括 (推進施策4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の文化活動の中核的施設としての機能や展示・企画の充実のため、管理運営の支援を行った。</li> <li>・施設の維持・補修に努めるとともに、文化施設相互の連携を促進することにより、県民がより利用しやすい施設づくりを図る必要がある。</li> </ul>

## ○推進施策3 青少年の文化活動の促進

### 1 青少年の県総合美術展覧会への出品数【目標値:250点以上(令和2年度)】

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	185	0	102	147	135	137	162	147	161	194	

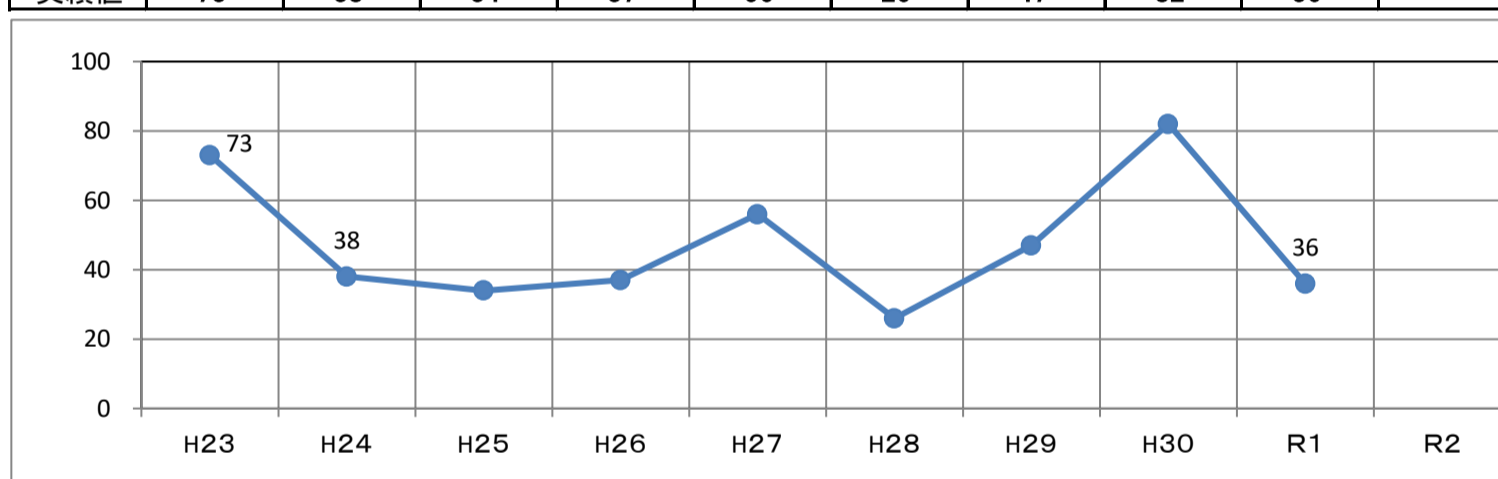
※H23は震災により中止



指標の変動要因と今後の見通し	・東日本大震災後、初めての開催となったH24年度は、青少年の出品数が大幅に減少した。学校訪問などを継続して行ってきたことにより、出品数が徐々に回復し、令和元年度には震災前年度(H22年度)を上回った。
課題	・広報活動の強化や県内高校への出品呼び掛けを引き続き行う。

### 2 青少年の県文学賞への応募数【目標値:55点以上(令和2年度)】

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	73	38	34	37	56	26	47	82	36	



指標の変動要因と今後の見通し	・東日本大震災後は、青少年の応募数が低迷していた。講演会の開催などにより、平成30年度は大幅に増加したが、令和元年度は平成30年度以前の水準まで減少してしまった。
課題	・広報活動を強化するとともに、県内学校への呼び掛けを引き続き行う。

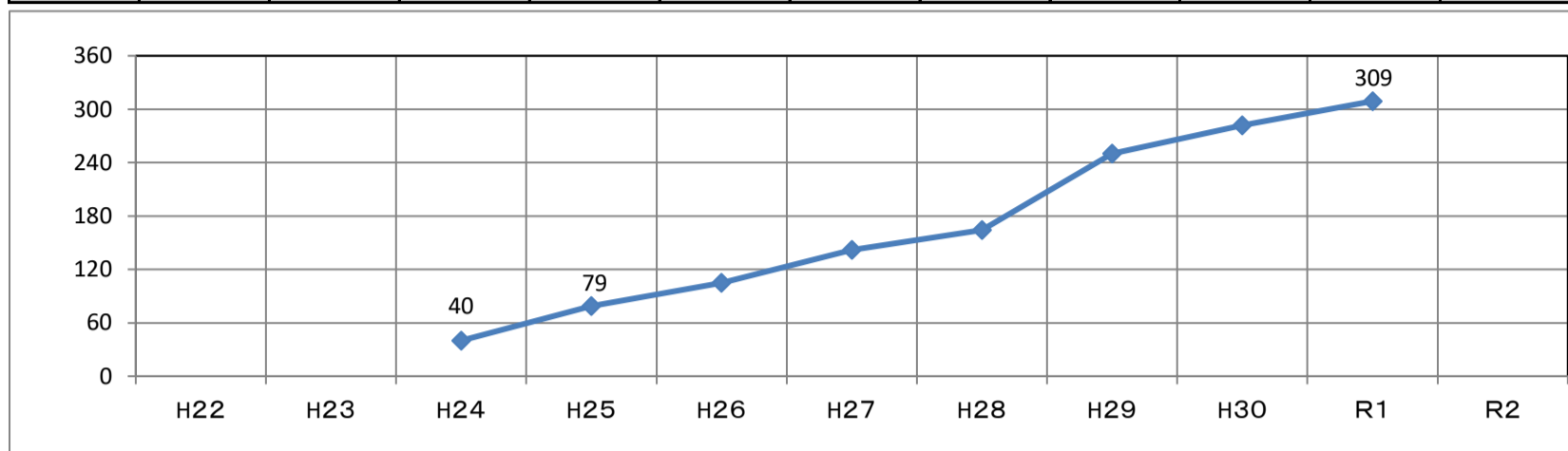
推進施策の総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県総合美術展覧会や県文学賞の開催及び作品募集等を通して、青少年の発表機会及び鑑賞機会を確保してきた。</li> <li>・県立美術館と学校との連携共同ワークショップなどにより、子どもたちの創作意欲を高めた。</li> <li>・次期計画の策定においては、人口減少及び少子化といった社会情勢の変化を踏まえ、目標値を検討する必要がある。</li> </ul>
---------	---



○推進施策5 伝統文化の継承及び発展

1 地域伝統芸能交流会参加児童生徒数(ふるさとの祭り参加児童・生徒数)  
【目標値:延べ360人以上(令和2年度)】

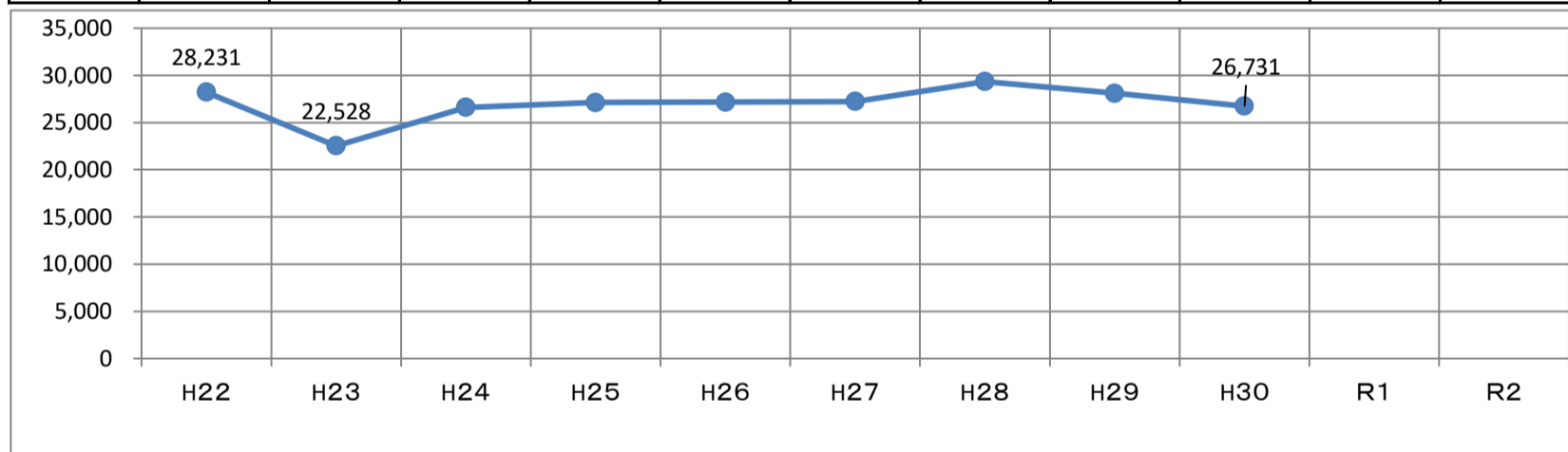
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値			40	79	105	142	164	250	282	309	



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、台風19号及び21号の影響による開催中止・出演見合わせがあり、出演団体数が少なかった。(出演8団体、うち児童・生徒参加4団体)</li> <li>児童・生徒に限定した事業ではないため、参加児童・生徒数は出演団体に左右される。</li> <li>ふるさとの祭りは、県内に加え首都圏でも引き続き開催する。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>公演事業(ふるさとの祭り)を活動の再開や継続の目標として位置づけ、サポート事業と一体的に民俗芸能の復活・発展に向けた支援を引き続き行っていく。</li> </ul>

2 まほろんの入館者数【目標値:30,000人以上(令和2年度)】 ※再掲

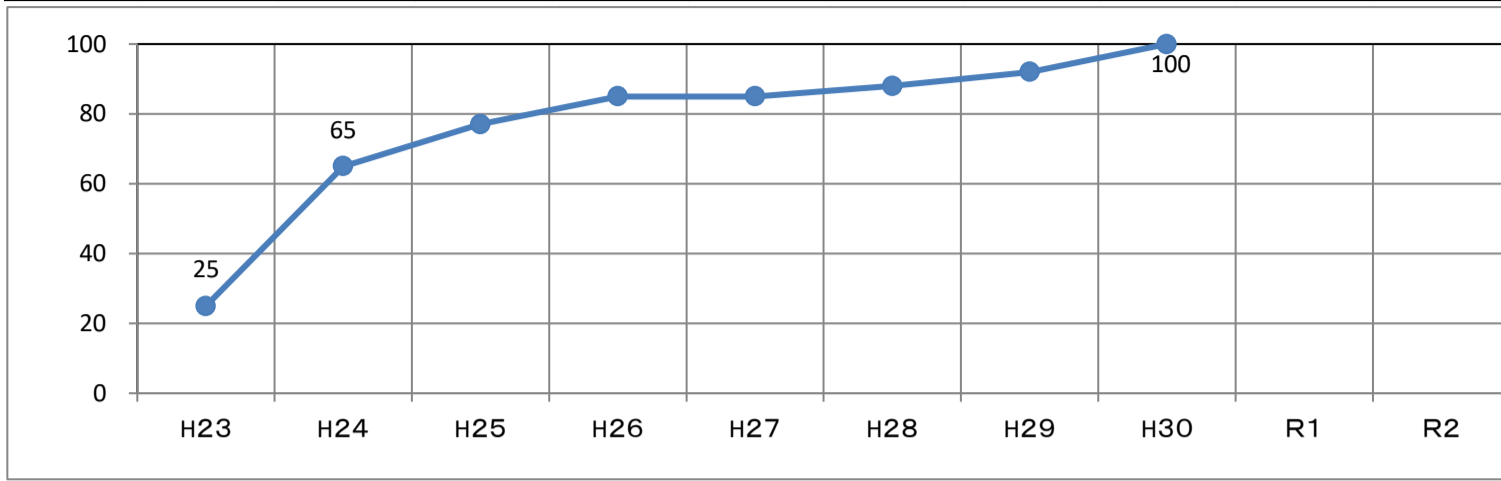
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	28,231	22,528	26,597	27,127	27,166	27,227	29,341	28,102	26,731		



指標の変動要因と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、郡山市や福島市に類似施設がオープンしたこと、加えて「コミュタン福島」などが開設されたことや、来館数における大きな割合を占める小学校等において、カリキュラムが過密になったことなどもあり、学校からの入館者数が減少している。また、社会情勢的にも団体旅行が減少傾向にある。</li> <li>魅力ある企画・イベントの実施やより充実した情報提供などサービス向上に努めていく。また、観光とのタイアップなども考えていく。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>リピーター等による入館者の確保、県内外隣接地域の学校等に対するPRによる団体利用の確保、県広報メディア等を利用した周知による来館の促進が課題である。</li> </ul>

### 3 被災文化財の修復件数割合【目標値:100%(令和2年度)】

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	25	65	77	85	85	88	92	100		



指標の変動要因と今後の見通し	・東日本大震災により被災した国指定・県指定文化財の修復等保存事業について、県で対応すべきものについてはすべて対応済。
課題	・なし。

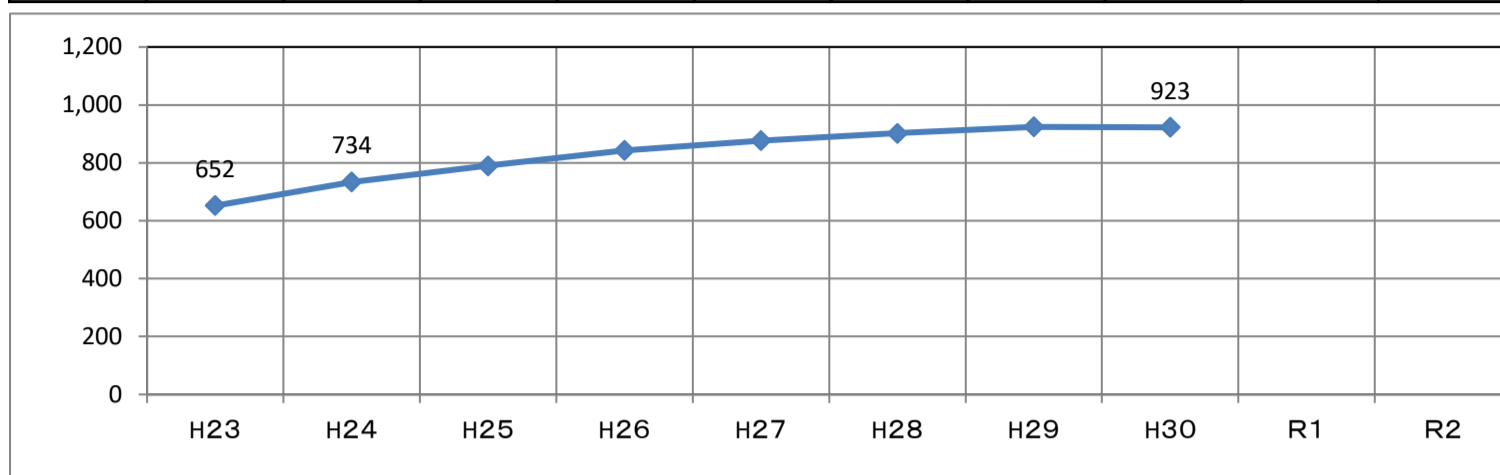
推進施策の総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災文化財の修復が完了したこと、活動を再開した民俗芸能団体が現れるなど、一定の成果が見られる。</li> <li>・伝統文化の次代への継承に向け、引き続き支援に取り組む必要がある。</li> </ul>
---------	---



## ○推進施策6 生活文化の充実

### 1 NPO法人認証件数【目標値：累計1,055件以上(令和2年度)】

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値(累計)	652	734	790	843	877	902	924	923		

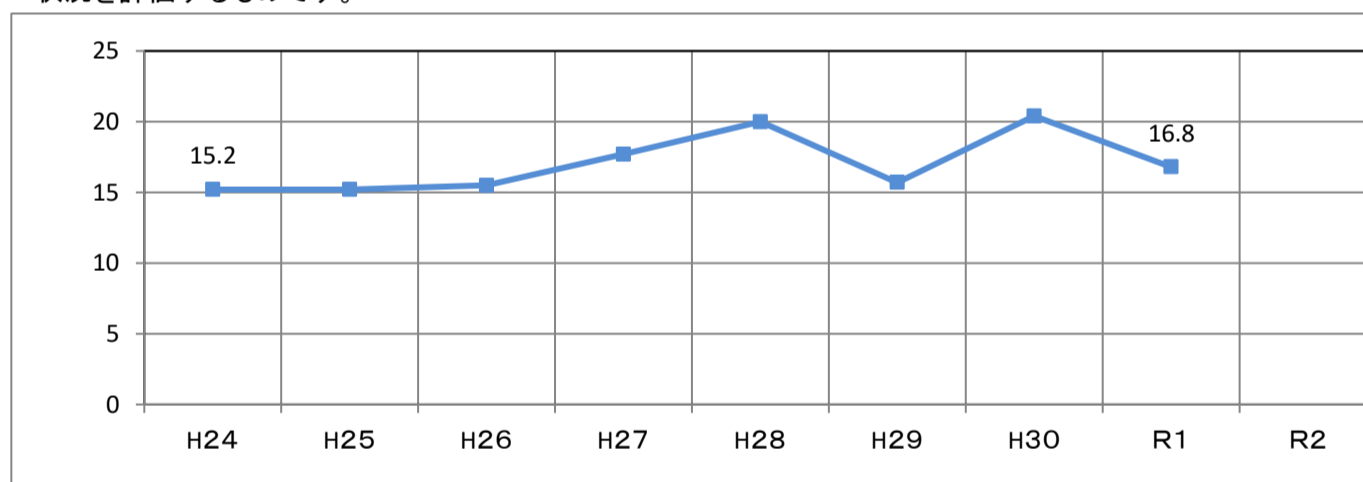


指標の変動要因と今後の見通し	・東日本大震災以降、認証件数は大幅に増加していたが、平成26年度をピークに、徐々に増加幅が縮小しており、平成30年度には減少に転じた。現在は設立する法人と解散する法人が同程度のため、同水準で推移すると想定する。
課題	・NPO法人が自立的かつ継続的な活動ができるよう、引き続き、運営力の強化に向けた、各種情報提供等を行っていく必要がある。

### 2 地域住民やNPO等による地域づくり活動に積極的に参加していると回答した県民の割合【目標値：上昇を目指す(令和2年度)】 ※福島県政世論調査項目

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	15.2	15.2	15.5	17.7	20.0	15.7	20.4	16.8	

※ 福島県政世論調査項目は、通常の指標で図ることが困難な県民の意識について、県政世論調査結果を用い、県民の視点から県の取り組み状況を評価するものです。



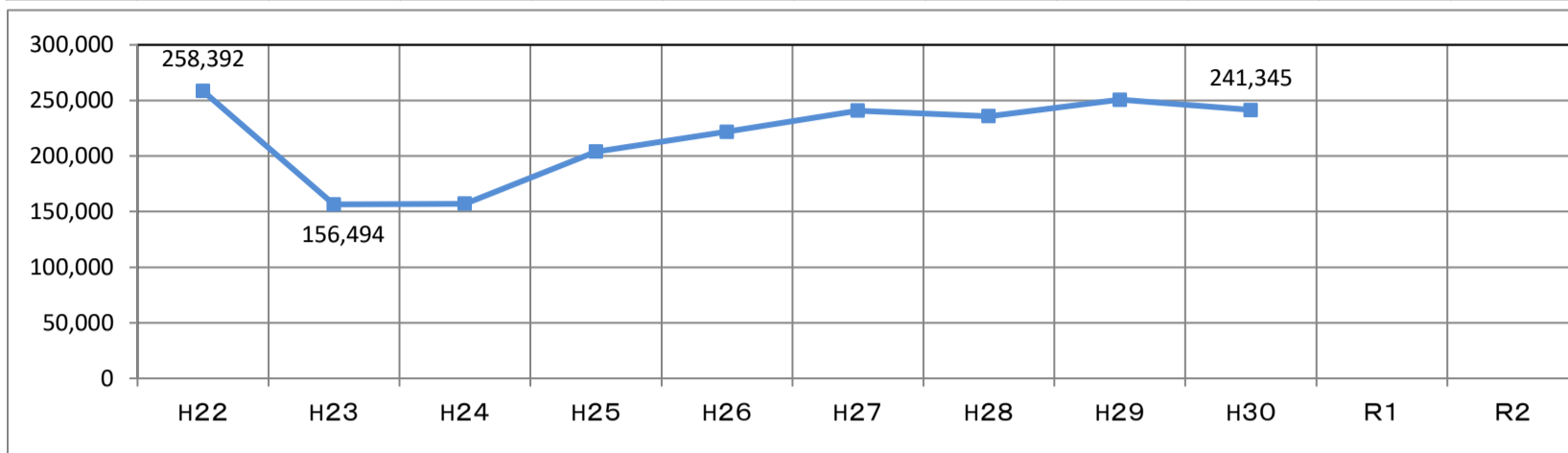
指標の変動要因と今後の見通し	・県政世論調査より、「あなたは住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。」という質問に対し「はい」3.9%で24人、「どちらかといえば『はい』」が12.9%で80人、合計104人で全体の16.8%であり、昨年度比約4ポイント減となった。
課題	・NPO法人の活動認知度の向上が課題である。

推進施策の総括	・NPOの運営力強化の支援やワークビズ推進などの県民運動の推進に取組み、地域づくり、復興の促進を図った。 ・運営力強化の支援を行った団体を始めとするNPOの活動認知度を高めることや、多くの県民が地域づくり活動に積極的に参加・支援することを促進していく必要がある。
---------	--

○推進施策7 文化の交流の推進

1 グリーンツーリズムインストラクターによる受入人数【目標値:290,000人以上(令和2年)】

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	258,392	156,494	156,949	204,031	221,786	240,650	235,691	250,586	241,345		



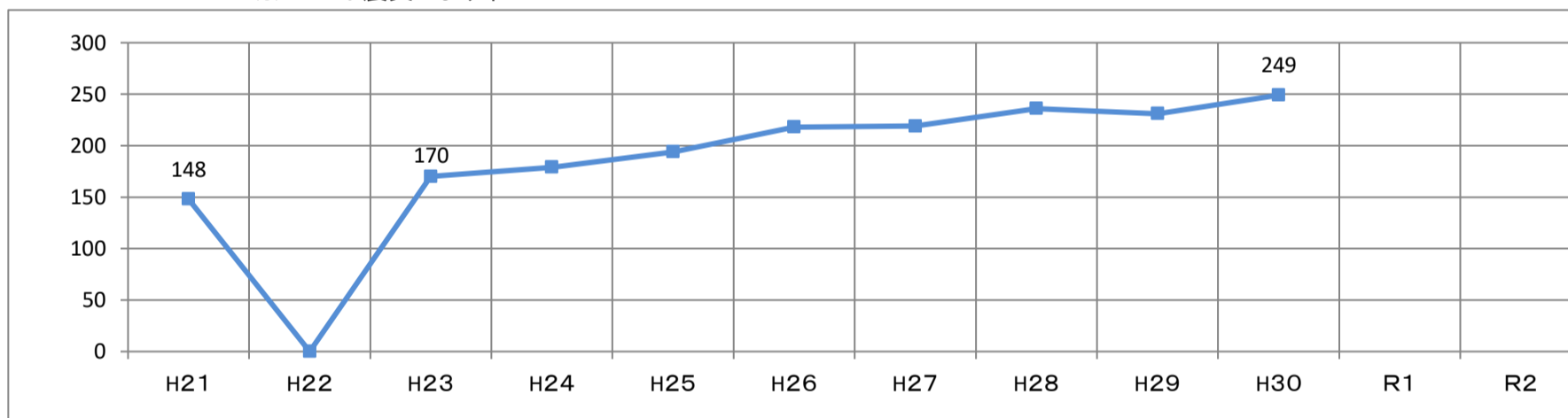
指標の変動要因と今後の見通し	・グリーン・ツーリズムインストラクター数が減少傾向にあるため、今後も減少傾向が続くと思われる。
課題	・グリーン・ツーリズムインストラクター等の人材育成及び原発事故に係る風評払拭が課題である。

2 声楽アンサンブルコンテスト全国大会の推薦及び公募団体数

【目標値:260団体以上(令和2年度)】

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	148	0	170	179	194	218	219	236	231	249		

※H22は震災により中止



指標の変動要因と今後の見通し	・全国から応募があり、応募団体数も年々増加している。更なる大会の発展を目指し、海外からの参加者の確保など、大会内容の充実を図る。
課題	・本大会の他、県内合唱団体や大会出場団体によるプレコンサートを実施し、大会の周知を図る。

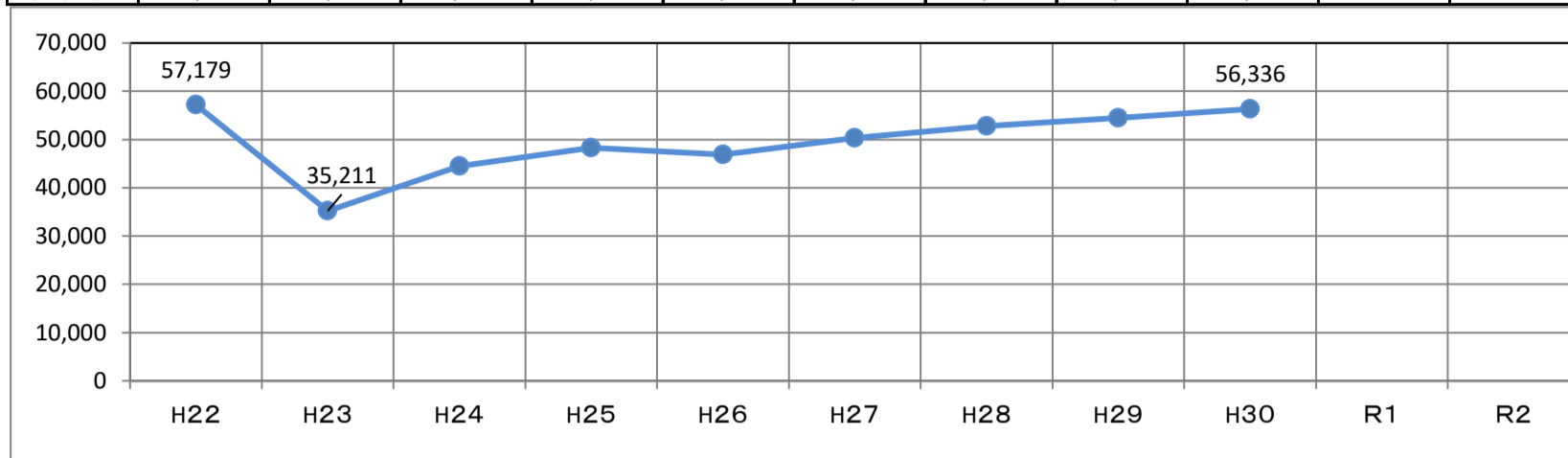
推進施策の総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声楽アンサンブルコンテスト全国大会には海外を含む多くの団体から応募があり、出場者及び来場者を通して、「合唱王国ふくしま」や本県が復興している姿を全国に発信することができた。また、海外団体と県内学生とのワークショップを開催し、文化交流を促進した。</li> <li>・県民の文化活動の活発化と地域の活性化に資するため、引き続き本県文化を発信するとともに交流の拡大を図っていく必要がある。</li> </ul>
---------	---

○推進施策8 文化振興による地域づくり

1 観光客入込数【目標値:63,000千人以上(令和2年)】

(単位:千人)

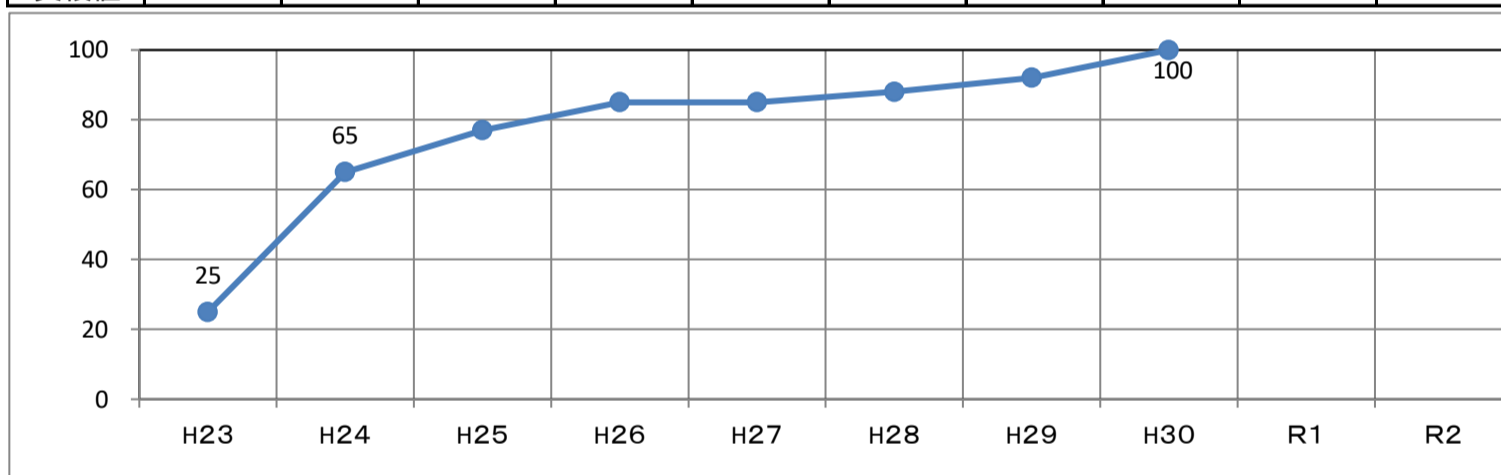
年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	57,179	35,211	44,459	48,314	46,893	50,313	52,764	54,494	56,336		



指標の変動要因と今後の見通し	・「道の駅伊達の郷りょうぜん」をはじめとする、道の駅の好調な入込が増加の要因。
課題	・中通り、会津地方は震災前の水準まで回復しているものの、浜通り地方は震災前の68.5%に止まっていることから、浜通り地方への誘客が課題である。

2 被災文化財の修復件数割合【目標値:100%(令和2年度)】 ※再掲

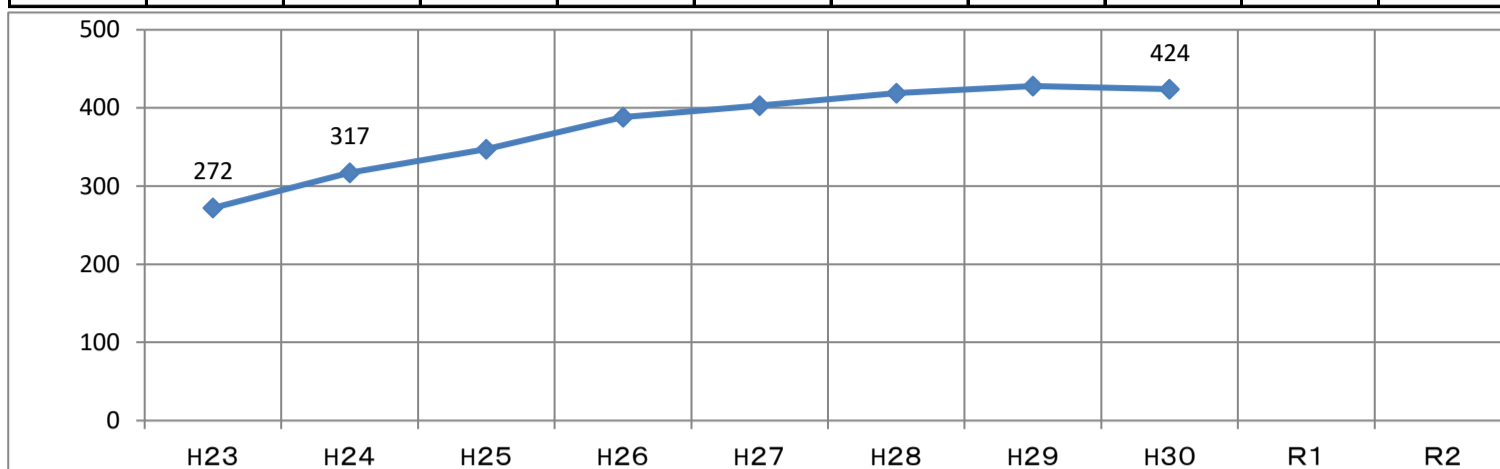
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値	25	65	77	85	85	88	92	100		



指標の変動要因と今後の見通し	・東日本大震災により被災した国指定・県指定文化財の修復等保存事業について、県で対応すべきものについてはすべて対応済。
課題	・なし。

**3 学術・文化・芸術・スポーツを活動分野のひとつとしているNPOの認証数 ※再掲**  
**【目標値:470団体以上(令和2年度)】**

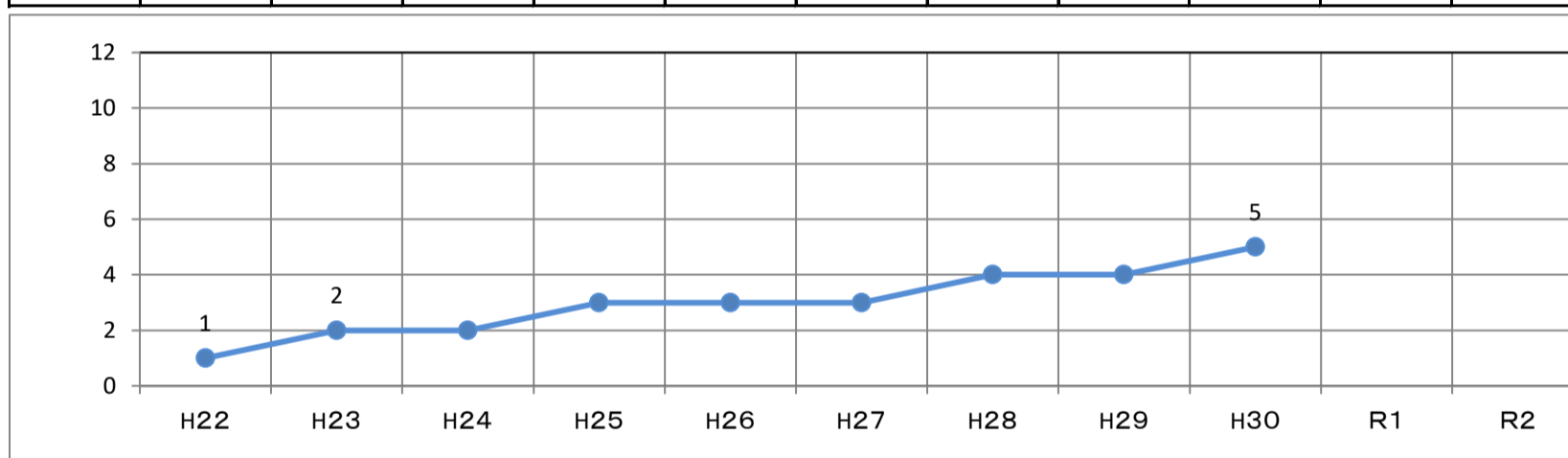
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値(累計)	265	289	343	381	397	414	424	424		



指標の変動要因と今後の見通し	・認証件数は増加傾向にあるが、平成26年度をピークに、徐々に増加幅が減少しており、今後ほぼ横ばいで推移すると想定している。
課題	・NPO法人が安定して特定非営利活動ができるよう、引き続き、法の趣旨に沿った適正な法人の運営に向け、各種情報提供等を行う必要がある。

**4 市町村景観計画策定団体数 【目標値:12団体以上(令和2年度)】**

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実績値(累計)	1	2	2	3	3	3	4	4	5		



指標の変動要因と今後の見通し	・市町村との合意形成に時間を要しており、近年横ばいとなっているが、これまでの啓発活動等により市町村の気運が高まりつつある。今後も国と連携した景観セミナーの開催や、景観アドバイザー派遣事業を推進し、団体数の増加を目指す。
課題	・市町村等と一体となって豊かな自然や歴史的景観などの貴重な県民の財産を将来へ引き継いで行く必要がある。

推進施策の総括	・民俗芸能継承のための支援により、民俗芸能団体の活動再開や被災文化財の修復が完了するなど成果が見られた。 ・次期計画の策定においては、文化芸術振興基本法の一部を改正する法律の趣旨である「観光、まちづくり等の各関連分野における施策との連携」を踏まえる必要がある。
---------	---

**○備考**

- 1 目標値(令和2年度)を設定している指標は、県の施策の努力目標です。
- 2 意識調査項目(推進施策6の「2 地域住民やNPO等による地域づくり活動に積極的に参加していると回答した県民の割合」)は、通常の指標で測ることが困難な県民の意識について、県政世論調査結果を用い、県民の視点から県の取組状況を評価するものです。